

**オムロン株式会社 2014 年度 3Q 決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)
(2015 年 1 月 29 日、東京)**

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 在庫が増加している理由は？

A: 昨年度末比で在庫が 340 億円程度増加しているが、為替影響や季節性によるところが大きい。但し、在庫月数は前年同期比で 1.8ヶ月から 1.9ヶ月に若干増加しており、年度末に向けてコントロールしていく。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: IAB の 3Q 累計における売上高の伸びは、市場成長と新たな取り組みのどちらに起因しているのか？

A: 半々くらいではないかと想定している。元々上期に大きな投資があることを見込んで、中国で新しい取り組みを昨年度から進めたことが、今年度の大幅増収に繋がった。今後は中国以外のエリアでも新しい取り組みの成果が出てくると思っている。

Q: 狙っている 4 つの業界の売上構成比と利益水準は？

A: 4 つの業界で IAB 全体の売上高の半分程度と推計。デジタルはボリュームディスカウントがあるので、利益率は比較的厳しくなることがある。自動車は納入後のメンテナンスやリペアがあるので、装置納入後の利益貢献が大きい。

Q: 今まで幅広い商品ラインナップを活かした営業が難しかった理由は？

A: 以前は営業員が担当商品のみを売る傾向があった。現在は高速高精度なコントローラを中心に、幅広い商品を組み合わせお客様に提案活動を行えるようになってきている。オムロンの商品を 1 つでも多く販売するように営業員のマインドが変わってきた。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: 3Q の売上高は 2Q より増えているのに、営業利益が減少している理由は？

A: 新商品の開発に向け投資を行っていること、また、買収した NS 社の統合費用が影響している。

◆ その他事業関連

Q: 環境とバックライトで計 80 億円の売上減を見込んでいたとのことだが、その内訳は？

A: 売上減を見込む 80 億円については、バックライトの方が比率が高いと見ている。

Q: バックライトは一時的な需要悪化を想定しているとのことだが、追加の設備投資は予定通り実行するのか？

A: 2016 年度までに追加の設備投資 100 億円は予定通り実行する。今後もバックライト市場は高機能スマホを中心に伸びると見ている。一時的な需要悪化を想定している理由は、一部のお客様の機種切替による影響であり、バックライト市場への不安はない。

Q: パワコンの遠隔出力制御により新しい需要は生まれるか？

A: 新しい需要が生まれると見ている。2016 年度の電力全面自由化などについても、大きなチャンスと捉えている。蓄電も可能なハイブリッドパワコンなど新商品を拡充し、新しい市場で事業成長を図ってきたい。
